

# 飲水思源

町長

松岡市郎

## 長寿化社会、「元氣」という病氣

「超少子高齢化社会が到来し、大変だつ!!」と口癖になっている人がいる。「大変だつ」というところを縮小し、プラスへ変えるのが福祉の起点、行政の仕事なのである。国全体として子供の数が減り、高齢者が増え、人口が減っているのは事実で、長寿化社会が到来している。このような中、社会参加できる機会づくり、憩いと出会いの場づくり、そして安心して暮らす居場所づくりが町の大切な課題となっている。

座していたのでは何も解決しない。「守株」では北原白秋の詩「まちぼうけ」の中にあるように「きび畑がほうき草」になつてしまう。

51歳で出家した作家の瀬戸内寂聴さんは90歳を超えているという。「お元氣です」という質問に「私は元氣という病氣になつてゐるの」「その病氣がもつと重くなるよう願つて」と応答があつたとか。人に迷惑をかけることなく、元氣で笑顔、明るく生きること、若き世代へエールを送り続ける姿は美しく品格がある。知人が言っていた。「若い時は脳も体

も柔軟性があるが、加齢していくにつれてだんだん脳が硬化し、柔軟性も薄れてくるものだ」と。いったん思い込んだらそれが絶対となり、たとえ誤りであつても貫こうとする。それを正すのは容易ではない、良薬はないという。本町の高齢者クラブの発表会などにも時々顔を出すが、会員の方々とお話ししていると一向にこのような気配は感じられない。笑顔で明るくご提言をいただき、美しい姿である。老いて元氣に楽しむことに勝るものはないと思う。

ある町の話である。「80歳近くなり、公然と人や機関を中傷誹謗(ひぼう)し、嫉妬している元氣な高齢者、自己主張は絶対に譲らない」という話を聞いた。品格はともかく、この方は元氣という病氣なのかも知れない。

議員から「町長、辞めたら行政への口出しは禁句だ」。私も「お互いにそうありたい」と言葉を返す。「老いては子に従い」である。その時は若者にエールを送る「元氣」という病氣」にかかりたいものである。

## 文化交流館 新刊図書・ビデオ案内

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



毎日かあさん  
(映画 DVD)  
ポニーキャニオン

2人の子供の子育てと仕事に翻弄(ほんろう)される忙しい日々を持ち前のたくましさで乗り切る漫画家のサイバラ。一方元戦場カメラマンの夫カモシダは、戦場でのトラウマのせいでアルコールにおぼれ、2人は離婚することに。大切な家族を失うことの大きさに気づいたカモシダは、完全隔離された病院に入院し、闘病の末依存症を克服する。ところが今度のがんが見つかり…。(114分)



ようちえんにいくんだもん(児童書)  
作/角野榮子 絵/佐古百美  
刊/文化出版局

3歳になったまりちゃんは、ようちえんに行くのをとっても楽しみにしています。「ようちえんっていつからいくの?」「どんなことをするの?」。いろんなことを知りたいまりちゃんに、ようちえんからしようたいじょうが届きました。そこでママと一緒に通園する道を歩いて見学です。やさしい先生にも会いました。「ママ、あのね、あたしようちえん、だいすき!」。



親鸞 激動編 上・下  
(一般書)  
著/五木寛之 刊/講談社

比叡山での20年にも及ぶ壮絶な修行の中、青年親鸞は心の闇を凝視し、ついに自らの道を見出した。だがその道を阻まれ、流罪を宣告されてしまう。流罪の地、越後へ向かった親鸞は異様な集団の動きに巻きこまれ、生き仏と称する「外道院」に直面することを決意する。累計100万部突破の前作「親鸞」につらなる超大作。